

## 芋煮を食べながら、 ふるさとの歴史や文化の発表会！

(山形県山形市にて実施したカフェ)  
開催詳細：P41 参照

山形市は、雪は降りますが穏やかな土地柄で、どちらかというところ災害が少ない場所です。しかし今やどこでも起きる水害や震災を考えると、安心はしてられません。そこで商工会の有志のみなさんと、自分たちのまちの防災について調べる発表会を開催し、これをきっかけにみんなでふるさとの防災について語りあってみました。



### ぼうさいカフェ in やまがたでは、、

事前の下調べで、地域の歴史災害を調べました。また活発に行われている「蔵」の再生や、学校への安全ガラスの導入などの現在の取り組みとの連携ができることになりました。このことから、多様な話題をもとに話し合える「発表会形式」を選択しました。

「発表会」が「勉強会」にならないように、専門家だけが話すのではなく、地域の工務店さんや漬物屋さんなど街で暮らす皆さんに発表者になって頂くことにしました。

発表と意見交換を盛り上げるために、地元の学識者とラジオパーソナリティーさんに司会進行をお願いしました。



### 【発表内容】

発表会では、6つの発表が行われました。

#### 山形の災害に関する伝説

山形に伝わる災害に関するお話を3話紹介。

- ・ 山形五堰と鳥居忠政  
山形で起きた大水害を受けて、鳥居忠政は安全な町作りのため河川改修の大工事を行った。
- ・ 薬師まつり植木市と山形大火  
「薬師まつり植木市」の日取りを変えたたりと言われる北部大火。大火で町の緑が減ったため、最上義光が緑化奨励で呼びかけたのが植木市のきっかけとも言われている。
- ・ 山形大火と蔵文化  
明治時代に発生した南の大火、北の大火。人々は災害から自分達の財産を守るため「蔵」を持つようになった。今も町のあちらこちらに残る「蔵」は山形市の文化となっている。

#### 北と南で仲が悪かったの？

山形は、北と南であまり仲は良くなかったそうです。しかし、大きな災害があった時は、真っ先に助け合い、お互い協力しあって災害から復興したそうです。災害のたびに、お互いの距離が短くなり、相互扶助の自主防災気運が広がっていったのです。



## 山形の暑さを乗り切った食

日本最高気温を保持していた山形市。その暑さを乗り切ったのは食だった?!

- ・山形の漬物の特徴について  
越冬、越夏の技術が受け継がれている山形の漬物。冷蔵技術がなかった昔からの知恵を紹介。
- ・越夏の技術『水まま』について  
食糧難や酷暑を乗り切った秘訣の『水まま』とは。



## 緊急地震速報 Q&A

平成 19 年 10 月からスタートした緊急地震速報について、仕組みと対処を紹介。

- ・どんなふうに速報は伝わるの？
- ・速報を聞いたらどうすればいいの？

- Q NHKではどんなふうに速報を伝えるの？
- A NHKでは10月1日から震度5弱以上の強い揺れが予測された場合にテレビとラジオで速報します。

テレビでは 放送中の画面に、地震の発生場所や強い揺れが予想される地域を地図や文字で表示します。

## すまいの中の防災チェックリスト

大地震が起こっても被害が少なくなるよう、各家庭内で簡単にできる心がけをチェックリストを紹介。



## 災害事例から学ぶガラスによるケガの予防策

災害時のガラスによる怪我を減らすための傾向と対策を紹介。

- ・過去の災害によるガラスの破損事例の紹介
- ・災害時に発生したガラスによるケガの原因
- ・災害時におけるガラスのケガの予防

### ガラスの被害



## 芋煮鍋の活用法

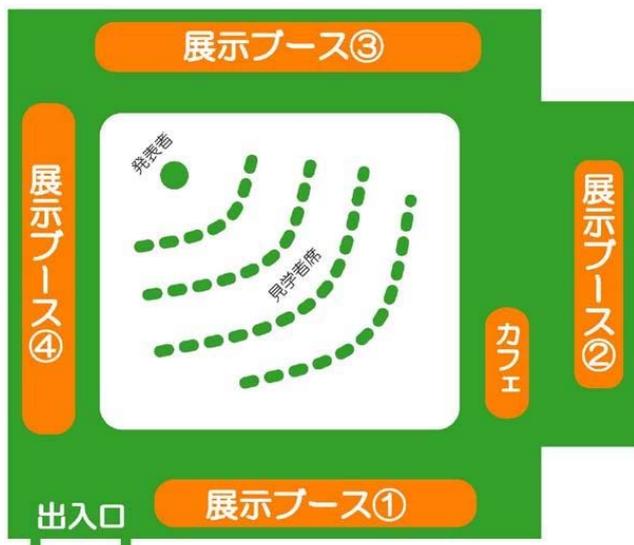
山形に古くから伝わる「芋煮」と災害の関係とは。

- ・阪神・淡路大震災当時の活動について  
震災被災者のために、山形青年会議所と一緒に、兵庫県西宮市内の避難所となった小学校で芋煮鍋を提供。
- ・災害時の芋煮鍋の利点について  
普段から屋外で行われているので、災害時でも作れる。
- ・現場で気づかされた芋煮用大鍋の「思わぬ活用法」について  
芋煮を作る鍋は、大量のお湯を沸かすことができる。避難している方々から、洗顔やお茶に利用したいのでこのお湯を分けて欲しいと



【会場説明】

笑顔に包まれた会場の雰囲気をお伝えします。



発表会場の周囲を展示ブースが囲むレイアウト。地元の中学生も混じって、芋煮を食べながら、終始、笑いの絶えないカフェになりました。



会場は公民館の多目的ホールです。



Point! 気軽な雰囲気



Point! 手作りのカフェ



手作りのパネルや実物の鍋を見せながらの発表会です。

Point! 親子連れや中学生も参加



「防災対策できてますか？」  
「やらなきゃいけないことの半分位です、、、」



ラジオの投稿番組風に、皆さんの質問やご意見を紹介しました。「携帯電話は懐中電灯代わりになりますから覚えて下さい！」

### 【地元のキーマンのコメント】

地域づくりやまちの活性化の一環として、「防災・減災」をこのイベントをきっかけにして、まちづくり運動として展開していければと思っています。

中心街にある廃校の小学校を常設の「ぼうさいカフェ」にして、そこを地域の防災の活動拠点とするのが目標です。

### 【参加者の感想】

- ・ 地震の際の逃げ方などを知ることができてよかったです。
- ・ 今日のお話を聞いて、家の状況を把握したいと思いました。
- ・ 防災チェックリストがあると、家の中を見直しやすいので参考になりました。
- ・ 緊急避難先の確認をしたいと思います。
- ・ 家族で話し合いを行う。タンスやテレビの固定をさっそくやります！
- ・ 家の中をチェックする気になれたことが一番でした。

### 【開催のポイント】✍️

「ぼうさいカフェ in やまがた」では“発表会形式”でぼうさいカフェを行いました。発表者は持ち時間5分の中で、「普段、防災に興味ない人にもわかりやすく」をテーマに、発表内容をなるべくわかりやすくして頂きました。

それぞれが知恵を絞って下さり、写真や新聞記事を大きく引き伸ばしたパネルを利用したり、大鍋の実物を持ち込んだり、と、一般の方にも馴染みやすく分かり易いように工夫が凝らされた発表となりました。

発表会での「山形の災害に関する伝説」「山形の暑さを乗り切った食」「芋煮鍋の活用法」といった内容は、山形市民であれば基礎知識として知っていることでした。しかし、その話が実は「防災」につながっている、ということを知ってもらうことができました。

更に、普段の暮らしでは忘れられがちな「伝統」や「先人の知恵」といった「故郷の素晴らしさ」を再認識するという点でも、参加者の「気付き」となりました。

### 【やってみませんか】💡

**どんな地域でも災害や防災の記憶があり、偉人がいるはずで、災害に対する歴史的な取り組みや工事・建築の跡、それに先人の工夫・努力を掘り起こして、新しい災害文化を考えるきっかけにしてみませんか？**

過去の災害情報は、

「図書館、博物館、教育委員会、気象台、行政機関、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。

歴史的な取り組みは、

「郷土文化を研究している方々、歴史の先生、昔から地域に暮らしている方」等に聞いてみると、意外な情報を聞けることがあります。